

連携によるコーディネーター育成 について

紹介したい実践の取り組み内容

- ・H29より、特別支援学校自立支援部教員、学校生活支援教員等(R1は、学校生活支援教員がエリアコーディネーターを兼任)が、コンサルテーション研修として、幼小中のコーディネーターを育成を目的とした研修を開始(要項の一部は右記参照)
 - ・H29は市内小学校のコーディネーター
 - ・H30は市内保育所のコーディネーター
 - ・年度末には、特別支援学校自立支援部教員、学校生活支援教員が一堂に会し、コーディネーター育成についての成果と課題を話し合う。
- コンサルテーション研修講座(市教育委員会主催)要項**
- 1 ねらい
 - 特別支援教育チーム(特別支援学校自立支援部教員、学校生活支援教員、学校生活支援教員)が協働しての活動を促すとともに、さらに充実したコンサルテーションを実践できる力の育成を図る。
 - 本講座は、兵庫教育大学院発達障害支援コースと連携し、より専門性を高めるようとする教員への研修化を図る。
 - 2 対象
 - 特別支援学校自立支援部教員、特別支援学校自立支援部教員、学校生活支援教員、学校生活支援教員
- エリアコーディネーター含む**
- コーディネーター研修講座(市教育委員会主催)要項**
- 1 ねらい
 - 特別支援教育チーム(特別支援学校自立支援部教員、学校生活支援教員、学校生活支援教員)が協働しての活動を促すとともに、さらに充実したコンサルテーションを実践できる力の育成を図る。
 - 本講座は、兵庫教育大学院発達障害支援コースと連携し、より専門性を高めるようとする教員への研修化を図る。
 - 2 対象
 - 特別支援教育コーディネーター(特別支援学校の教員)に対し、エリアコーディネーターとしての育成を図る。
 - 特別支援学校自立支援部教員、学校生活支援教員、学校生活支援教員
 - 3 参加に当たり
 - 履修(参加)を促すために、事前に、各学校の希望型研修員または指導教員に研修参加の協力を得ようとする。

実践の成果と課題

本校と連携したコーディネーターからの感想

- ・巡回相談を含め、何度も子ども様を見に来ていただき、相談に乗っていただいたのが良かったです。具体的な支援方法を教えていただきました。その方法を園内で共有する方法も教えていただいたのがよかったです。
- ・コーディネーター行動計画と一緒に考えていただきよかったです。
- ・幼、小、中のコーディネーターが集まり、話し合いができたことが、連携を深めていくことに繋がってよかったです。

コンサルテーションを行った自立支援部教員より

- ・一緒に考えるスタンスではあるが、自分で答えが導き出せるようアドバイスを心がけた。
- ・エリアコーディネーターに頼るのではなく、相談できる校内での支援体制づくりが大切だと考えた。



一年間の支援について振り返る

実践の中で、自分が学んだと思うこと

- ・支援方法をアドバイスだけを行うのではなく、新しくコーディネーターになった教員に対して、コーディネーター行動計画と一緒に考えていくことが大切である。
- ・コーディネーター行動計画を考える際には、エリアコーディネーターを含む、市内の専門性の高い教員から、多面的に意見を出し合っていくことによって、コンサルテーションが深まる。
- ・学校や幼稚園によって、その強みが違う。ウイークポイントに注目しがちであるが、ストロングポイントを見極め、助言していくことも大切である。



H30の研修の様子

実践活動の今後に向けて

- ・本校自立支援部のみで考えるのではなく、エリアコーディネーターを含む**多種多様な意見**を聞きながら進めていくこと。
- ⇒本市の資源
 - ①特別支援学校自立支援部(A特別支援学校、B特別支援学校、C特別支援学校)
 - ②エリアコーディネーター
 - ③学校生活支援教員(小4人、中2人)
 - ④福祉関係機関(市立かるがも園、発達支援センター)
 - ⑤大学(兵庫教育大学等)
 - ⑥市教育委員会

地域支援づくりへの提案

エリアコーディネーター**だけ**が努力しても
特別支援学校自立支援部教員**だけ**が努力しても
市教育委員会**だけ**が努力しても

